



校長室だより

令和8年度

5月15日

NO. 6

文字から、心で、体で感じ、豊かに表現できる素梨っ子に

「ページをめくって文字を追うたび、物語に没入するたびに、あなたの脳内では『静かな、しかし豊かな変化』が起きています。」

『読書する脳』(SB新書) 毛内 拓著



運動会練習真つただ中です。今年度最初の「さえずりの会」さんの読み聞かせがありました。

ツバメの子供たちが巣で、親が帰ってくるのを、首を伸ばして待っています。実際に子供に餌をやる時間はほんのわずか、親鳥は子供のために飛び回ります。そんな子鳥たちも、すぐに大きくなり、まもなく飛ぶ練習を始めます。

十三日には、今年度最初の「さえずりの会」による読み聞かせがありました。昨今、不読率(期間中に本を一冊も読まなかった人の割合)が問題となっている中、子供たちにとってこうした本に触れ合う機会はとても大事です。読み聞かせは直接、自分で文字を読む行為ではありませんが、朗読音声でも、調べ学習などで図鑑を見ることも読書に含まれ、文字を読む行為より、それにより自分の内面世界が広がったり心が動いたりする効果が大事にされます。読むことが好きな子も苦手な子も、読み聞かせでは集中して本を見つめ、話を聴き、笑ったり驚いたり、つぶやいたり考えたりします。こうした読書体験を通してより心豊かに育ってほしいと願います。

多くの教育が「言語」を通して行われますが、様々な体験活動では「非言語」が中心になります。「メラビアン」の法則によると、感情や反感などを伝える場面では直接の言語情報より、視覚情報や聴覚情報の方が、相手の受ける印象に影響を及ぼすと言われます。現在、運動会練習が盛んにおこなわれていますが、体育では、言葉で伝えることができないため、子供たちは動きや掛け声、表情などで表現します。読み聞かせでも話を聴いたり絵本を見たりすることで、本の世界を味わいます。もちろん言語表現は大切ですが、子供たちが、多彩に表現できる体験の場も大切にしていきたいと考えます。

【5月13日のさえずりさんの読み聞かせ本】1, 2年生「トマト大王」(ひだいずみ作)、「おなやみかいけつせんぷうき」(たかせともみ作)、「まゆとてんぐ」(富安陽子文・降矢なな絵) 3, 4年生「かあさんから生まれたんだよ」(内田麟太郎文)、「ひとつの火」(新見南吉文)、「ラッキーカレー」(シゲタサヤカ作) 5年「すききらい」(中川ひろたか作)、「タコとイカはどうちがう?」(峯水亮写真・池田菜津美文)、「ぶたのたね」(佐々木マキ作)、「ねずみくんのチョコキ」(なかえよしを作) 6年「さかさま」(TERUKO作・絵)、「きみはいっぼんの木」(やまぐちりりこ文)